



岐大通 2013

第4節 コンサドーレ札幌 戦

11/17(日) 17:00~

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

today's guest : コンサドーレ札幌 2012 J1 4勝2分2敗 勝ち点 14:18位

母体は神奈川県川崎市の「東芝堀川町工場サッカー部」で、1977年から開始の「第1回地域リーグ決勝大会」でJSL(日本サッカーリーグ)に昇格、以後は「東芝」として日本リーグから落ちることはなかった。Jリーグには参加しなかったものの、1996年に北海道に移転して「コンサドーレ札幌」となる。1998年にJリーグ昇格も、その後4度の降格(3度の昇格)を経験する。(吉田铸造)

第3節・10/2ホーム栃木戦では、惜しくも敗れてしまったFC岐阜。つづく前節のホーム・愛媛戦では、どうしても勝利が欲しかったところだが、残念ながら1-1で引き分けてしまった。あわや逆転かと思われるシーンもあり、非常にもったいない結果とも言えるが、後半1分に退場者が出てしまったこと、相手に倍のシュートを撃たれたことを考えれば、やむ無しの結果だったとも言える。本来ならば、前節でJ2残留を決めたかったところだが、こんな悔しい結果も引くくめて“ This is a Football ”、これがサッカーだ。残り2試合、この悔しさを糧にして、前を向いて進んでいくしかない。幸いにも最下位・鳥取も群馬と引き分けた(これで最下位=讃岐との入替戦の可能性は2チームに絞られた)ため、勝ち点差は4と変わらず。「勝ち点差を引き離せなかった」と見るか「勝ち点差が変わらず残り試合を減らせた」と見るかは人それぞれだろうが、1週間後には確実に、次の試合がやってくる。そして(毎年感じるのだが)、長かったはずの全42節・2013年リーグ戦も、いつの間にか第4節・ホーム最終戦を迎える。

さて、その今節・ホーム最終戦の対戦相手は、現在7位のコンサドーレ札幌。前節では神戸を破って2連勝中と、順位も調子を上げているチームだ。プレーオフ圏内(現在の6位は勝ち点63・徳島)を十分に狙える位置(勝ち点60)につけており、1年でJ1に返り咲くために、必死で勝利を目指してやることだろう。そして、札幌との通算対戦成績は、1勝1分6敗、6得点1失点、ホームでも1勝0分3敗、6得点9失点と、これまでのデータからすると非常に相性が悪い相手だ。岐阜の勝利は2010年4/4の第5節のみ、前回の対戦でも6/22第2節に厚別で0-4と敗戦している。しかし、向こうもプレーオフが懸かっているだろうが、こちらだって残留が懸かった、しかもホーム最終戦だ。負ける訳にはいかない。

今節の岐阜は、#1野垣内俊が累積警告で、#34バージェが前節の退場で出場停止と、主力2選手が欠けるのは厳しいが、他の選手の奮起に期待したい。一方、札幌はテクニシャンのFW#1前田俊介と197cmの大型FW#35フェボを欠くが、今季15得点と札幌の総得点の4分の1以上を叩き出し、現在はリーグ3位の得点力を誇る(しかも、前回の対戦では2点を奪われた) #13FW内村圭宏は健在だ。いかに彼に仕事をさせないかが、この試合の重要な鍵になるだろう。また、出場が噂される「ベトナムの英雄」#19レ・コン・ピンは、この試合が母国ベトナムで初めて生中継放送されることもあり、相当燃えているだろう。しかし、岐阜でも#1GK高木貴弘と#8MF李漢宰にとって札幌は古巣、両選手とも気合いが入っているだろうし、#35CB木谷公亮と札幌の#2SB日高拓磨は1年の鳥栖でのチームメイトだ。3選手をはじめとする、岐阜の選手たちは必ず、大いに活躍してくれるはずだ。また先日、#6服部年宏の今季での引退が発表された。2年間、偉大なフットボーラーが岐阜で活躍してくれたことに本当に感謝したい。ハットさんの有終の美を勝利で飾るためにも、今節は絶対に負けられない。

泣いても笑っても、これが今年のホーム最終戦。もちろん、今節で残留は決めたけれど、まずは目の前の、この試合の勝利を全力で掴み取ることが何よりも重要だ。そうすれば、自動的に結果は転がってくる。選手たちも、そうやって集中して、最後までひたむきに走り抜いて貪欲に勝利を目指すだろう。僕らも、最後まで選手を励まし、背中を後押しして、そして試合終了の笛と同時に、勝利と残留決定の歓喜を分かち合い、笑顔で選手たちを迎えようじゃないか。(ささたく)

2013J2 順位表 第4節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績(岐阜から見て)

1	G大阪	83p	+52	95	43	A	H
2	神戸	79p	+34	73	39	A	H
3	京都	70p	+24	66	42	H	A
4	長崎	66p	+10	48	38	H	A
5	千葉	64p	+19	65	46	H	A
6	徳島	63p	+4	54	50	H	A
7	札幌	60p	+8	57	49	A	
8	松本	60p	-2	52	54	A	H
9	栃木	59p	+5	58	53	A	H
10	山形	58p	+14	72	58	H	A
11	岡山	56p	+8	51	43	H	A
12	東京V	54p	-6	51	57	A	H
13	横浜FC	52p	-1	44	45	H	A
14	水戸	52p	-6	47	53	A	H
15	福岡	52p	-9	43	52	A	H
16	愛媛	46p	-8	41	49	A	H
17	北九州	45p	-11	48	59	H	A
18	熊本	43p	-26	40	66	H	A
19	富山	41p	-15	41	56	H	
20	群馬	38p	-18	40	58	H	A
21	岐阜	34p	-41	35	76	---	---
22	鳥取	30p	-35	35	70	A	H

今シーズンもホーム戦の発行
コンプでした(予定)。
ご愛読
ありがとうございました。

「いらっしやいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から
徒歩3分。

休: 月曜(定休日が変わりました!)



本庄工業株式会社

<http://www.honjo-woodream.com/>

【第40節】岐阜1-愛媛

今日の警告でバンディエラの今季終了。そして、バジェの退場という不利の中、何とかドローでクローズして勝ち点1を上乗せ。同じく引き分けた鳥取との勝ち点差をキープできたことはよかった。ここ最近の実戦を使った練習を生かして、10人での戦い方を覚えちゃったね(笑)。それにしても、愛媛はいいチームだった。前半失点するのも時間の問題、って雰囲気もあったけど、得点シーンはさすが。G大阪に勝って、さらにここんとこの好調さを随所に見せてた。前半終了時には、一点だけで済んでラッキー。逆に後半イケるぞ!という気になってたんだけど、結果ドローで勝ち点1は御の字か。いずれにしても、愛媛とやる時には、どうしてこんなに気持ちよくない展開ばかりになるのかな?どなたか、ひとつご教示を。

.....え?バンディエラの警告は通算4枚目?1試合だけなんだね!だよな~、そうじゃないかと思ってた。累積で休んだ覚えのないもの(爆)。ついつい雰囲気に流されちゃったよ。それでも、いろんな意味でどうしても勝ちたいホーム最終戦の次節・札幌戦に野垣内が出場できないのは痛い。本気でそう思える選手になってきた。今日も、最終ラインで相手のチェックを股抜きでかわしたり、幻の勝ち越しゴールだったソメのシュートに至る左足のクロスだったり攻守にわたってウチの左サイドをけん引している選手の不在。誰を入れるか、それともシステムを変えるのか。決めるのは、もちろん辛島さんだけど、スタメンの選手が全力で戦えるようバクスタからも全力で応援したい。

さて、この期に及んでというか今さらなんだけど、ウチの選手にどうしても伝えたいことが一つ。「審判と戦ってどうする?」キミらもプロなんだから、いい加減慣れてください。今季のリーグの基準に。そして、当日の基準に。今季だけじゃないかもしれないが、ウチのFWが取られやすいファールは、今日もあったけど、ロングボールで競り合わないところへ相手DFが乗っかってきたのにこっちのファールになるケース。相手の自作自演じゃん!と思ってたけど、結局空中にいる者はバランスを崩しやすく、その結果ケガに結びつき易いから保護してるみたい。だから、いっそのことジャンプして競り合っちゃえばいいワケで。バジェの1枚目はまさにそれ。そして、今日のユーキも論外な。見えてなかったんだとは思うけど、あの位置のボールには当然DFはヘッドでクリアに来るから。どうしても足を上げた方が反則を取られる。それから、半ば試合を壊しかけたバジェの退場。2枚目のプレーが警告に値するかどうかは別にして、主審のジェスチャーは繰り返しのラフプレーなんで仕方ない。問題は一枚目。あんなことしたら警告出されるのは、それこそ万国共通。あれほど、主審が自信を持って警告を出せる行為(プレーですらない)はないんじゃないか?前半のうちにユーキが警告をもらったことによる交替なんだし、ベンチから見ていた分主審の傾向も理解して欲しかった。

本音をぶっちゃけると、審判に公平な笛は求めていない(笑)。まあ、たいていどんな試合でも双方のサポから文句言われるもんでしょ?審判って。誤審とまではいなくても「え~?」となる判定もあるのはやむを得ない。一人で見てるんだもの。でも、ウチの選手には落ち着いてほしい。その代わりにヤジやブーイングはこちらから飛ばすので。戦うのは、あくまで相手チーム。審判とはキチンとコミュニケーションを取るようしてください。

それにしても、ウチのファール数は多いよね。リーグ2位だったかな?与えたPK数も多い。時々の活躍がなかったら.....と思うとゾッとす。他にも、鳥取戦のソメみたいなセルフジャッジも散見される。結論として、ウチは審判からマークされてるんじゃないのかな?そういう傾向を知ってか知らずか、愚直に同じプレーをするから、今日のようなツライ状況になりやすいのでは?そして、リーチがあと3人。美尾と司とソメ。札幌戦でも十分気をつけてもらって、1人で勝利の瞬間を迎えましょう!(ぐん、)

【ホーム最終戦恒例】

今季のベストゴール、ベストゲーム、MVPは?

ベストゴール

第8節・アウェー松本戦 新井辰也の1点目
リーグ最少得点なので、どれも思い出せるような.....。劇的度でいえば第18節・ホーム長崎戦での染矢のさよならゴール。美しさでいうと第3節・アウェー千葉戦での司のスーパーボレー。いずれも甲乙つけがたいんだけど、あえて第8節・アウェー松本戦での新井の同点ヘッドを。前節まで無得点勝利なしの重苦しい空気、呪縛を吹き飛ばしてくれた、とんでもなく高く感じた打点からの豪快ヘッド!「ヨシッ!イケる!!」と思わせてくれるとともに、新井自身が秘めるポテンシャルや可能性も再認識させてくれたゴールに一票。(ぐん、)

第1節・ホーム山形戦 杉本裕之
杉山新からの縦パスでディフェンスライン裏に抜け出すと絶妙のトラップでボールをコントロール、一瞥でGKの位置を見極めると力みの無い足の振りでループをかましゴールをおとし入れた。素晴らしいゴラッソだった!しかしこういうゴールをゲットできる男が、なぜベンチにもなかなか入れず、たまに観る練習試合ではサイドバックをやっているのか...雰囲気から勝手に類推すると、杉本は多分「良い人」すぎるんだろうな。いつか一皮むけてエゴイスティックなストライカーに変身してくれ!(cruyff)

第2節・ホーム北九州戦 水野泰輔
試合開始早々、ファーストタッチのプレーじゃなかったかな?ペナルティエリアの外から迷うことなく右足を振り抜いた、実に美しいゴールでした。さすがは「名古屋ユースで10番を背負った男」、その才能の片鱗を見せてくれました。J初ゴールということもあり、今後に期待して選定しました。(ささたく)

第3節・ホーム鳥取戦 スティッペの1点目
インパクトなら長崎戦の染矢のゴールだろうし、弾道の美しさなら千葉戦の益山のゴールなんだろうけど、あそこまで綺麗に崩せた美しさ。新井のヘッド ユーキのポスト スティッペのサイドへのパス 染矢のよく見えてたマイナスのクロス ユーキがちゃんとDF引き連れてコースを開ける スティッペの綺麗なミート。「チームで崩す」ことが完璧に出来ていた。(吉田鑄造)

ベストゲーム

第28節・ホーム神戸戦 岐阜1-0神戸
相手は同じJ2なんだから『格上』なんかじゃない、と思いつつも、ガンバにどっかどこかにやられた経験を思い出すと「あの神戸に勝った」というのは大きい。それも、ラッキーパンチとかでなく、「勝つ試合内容」で勝ったことがとにかく嬉しかった。その夜の酒宴がまあ盛り上がり過ぎて盛り上がり。(吉田鑄造)

第3節・ホーム鳥取戦 岐阜2-1鳥取
8勝しかしてないと、どれもこれもすぐに思い起こせるなあ(苦笑)。
その中で、ベストといえば浅中での鳥取戦。「ゼツタイ勝たなきゃいけない連戦」を連勝で締めくくったことも、先制、追加点の流れも、ついでに10人になってからも冷静に対処したことも含めてすべてがグッジョブ!次点は第18節・ホーム長崎戦。(ぐん、)
これは迷いました。大逆転劇だった6/15(土)第18節・アウェー鳥取戦も、ホームで神戸を撃破した8/11(日)第28節も、実に捨てがたい。しかし、「J初の大垣開催」「西濃の有力企業がマッチスポンサーに名を連ね、大東チェアマンと田口セイノーホールディングス会長が並んで観戦」「鳥取との“裏・天王山”」という、運営的にも経営的にも順位的にも非常に重要な一戦に勝利した点を評価しました。(ささたく)

このベストゲームは試合内容を評価してのものではない。試合を取り巻くさまざまな状況を考慮してのものである。残留争いの直接対決という裏天王山は、よりによって「J」参入後初の浅中開催となり、結果は当面のライバルを叩き最下位から脱出する劇的勝利となった。天敵野田主審から染矢が罰金物の2枚目のイエローをもらい、残り30分近くは10人でひたすら耐えしのぐ「おしん」展開となったが、それも勝ちさえすればすべて甘美な思い出である。過去の経緯から西濃地区からそっぽをむかれていたわがクラブが、特例での大垣開催を「J」に認めさせ養老鉄道を巻き込んでのイベントに仕立て上げ、それで勝利と最下位脱出も勝ち取るなんて120点の奇跡である。薫田社長持ってるね、いやそう信じちゃうよ。ついでに言えばエルゴラでうちの勝ちゲームのレポートが「面白」で載せてもらえたのも、「J」参入後初の快挙だった。(cruyff)

MVP

服部年宏

これは...すごく悩みました。チーム内得点王の#1染矢、「PK王子」#3時久、成長著しい#20新井、DFリーダー#35木谷、そして#36スティッペなどなど...。しかし、悩んだ結果、今年で引退する服部選手に、これまでのサッカー界への貢献と、岐阜に来てくれたことに感謝の意を込めて。また、ホーム最終戦でMVPに相応しい、大ベテランが最後の輝きを放ってくれることを期待して。

(ささたく)
スティッペ

彼をMVPに推すことに決めたのはつい先日の愛媛戦。それまでは先制されたら選手に「下向くな!」なんて叫びつつも内心は「ああ、もうおしまいだあ...」とへこんでいた(申し訳ない)けど、いまは本心で「1点ならなんとかなる」と思える。その理由が、スティッペの存在なんだよね。(吉田鑄造)

染矢一樹

後半戦のスティッペを見てたら「開幕からいてくれたら...」となるんだけど、それを加味しても今季のMVPは染矢で決まりでしょう。チーム1の得点とアシスト。攻撃の起点であり、フィニッシャーでもあり続けてくれたシーズンでした。行徳さんの薫陶を受けて守備でも貢献。今季のチームの屋台骨となってくれました。それにしても、第35節・アウェイ横浜戦。同点ゴールを決めた後、胸のエンブレムを叩きながら僕らのところへ駆けつけてくれた姿のカッコよさったら、もう.....。忘れられない、あのシーン。これからも、もっとたくさん見せてほしい!

(ぐん、)

4節終了時点で9ゴール6アシスト(アシストは筆者判断)まさに大車輪の活躍である。攻守にわたり一試合走り続ける姿は、文句なしのチームの核である。浅中の自己判断によるハンドでの退場はいただけないが、その後シーズン末まで通産8枚目のイエローをツモることなくプレーした(現時点でだが)あたり成長が感じられる。来期も一緒に戦って欲しいが...。(cruyff)

今年はソメでしょう。チーム得点王でもありますが、一皮剥けたなと感じる人は多いのではないのでしょうか。

(ヤックル)

服部年宏選手へ。

今シーズン限りでの現役引退を表明した服部年宏選手。彼が決めた1999年Jリーグチャンピオンシップでのミドルシュートは忘れられません。あのゴールが決まった瞬間スタジアムは静まり返り、僕もガックリと肩を落としました。でも負けてたまるかとすぐに気持ちを切り替えて、ゴール裏から目一杯声を出してエスパルスの選手たちを後押しした事を今でも覚えています。敵として戦えば憎たらしく嫌らしい選手、何度も苦い思いをさせられました。しかし味方として戦えば頼もしく心強いキャプテン、何度もピンチを救ってくれました。プロ選手として残された試合はあと二つ。最後まで服部選手らしく、気迫あふれる全力プレーを期待したい。お疲れさまでした、は最後の試合が終わった後。(Kamihira)

ブラジルを破った「マイアミの奇跡」をリアルタイムで観て歓声を上げ、ジュビロ磐田の「黄金時代」を横目で見ていた僕にとって、「あの」服部年宏が岐阜にやってくると知った時は、正直驚いた。本物の「日本代表クラス」、本物のプロ、本物の大ベテラン。2年前にドキドキしながら入団発表記者会見の場に行き、周りの若い選手とは別次元のオーラに「うわ、本当に服部がウチに来た...」と感激したことを、僕は決して忘れないだろう。

去年は、全4試合フル出場の大活躍。ピッチ上で若い選手たちを鼓舞し、指示を飛ばし、そして誰よりも最後まで走り抜いて、まさに「鉄人」の名を欲しいままにしていた。今年(非常に残念なことに)PSM京都戦で怪我をしてしまい...それが回復後もプレーに影響したのかな?引退という決断に繋がってしまったように思う。

プロ生活20年、公式試合出場74試合(この記録はJFLを含むけど、Jリーガーとしての出場記録でも歴代1位じゃないのかな?)という、本当に偉大な記録と記憶を日本サッカー界に、そしてFC岐阜に残してくれた服部選手。まだまだ彼のプレーを観たいと思うんだが...でも、まだ「お疲れ様」は言いたくない。あと残り2試合。最後まで全力でピッチを駆け回り、僕らにも若い選手たちにも、「これが「真のプロフットボーラー」服部年宏だ」という姿を刻み込んで欲しい。そして、シーズン終了後に僕は言いたい、「ハットさん、お疲れ様でした」と。(ささたく)

2年前にハットさんが岐阜に来てくれると聞いた時にはとても嬉しかった事を思い出します。そして昨年の全試合フル出場には「この人は衰えを知らないのか?」と嘖然とさせられました。今年(非常に残念なことに)はシーズン当初の怪我もあって不本意なシーズンだったかも知れませんが、去年の事もあったので、引退なんて事は全く想定していませんでした。だから今回のニュースを聞いた時には正直とても驚きました。シーズンはまだ終わっていないので「お疲れ様でした」とは言いません。今日も含めて残り2試合の貴方のプレーを目に焼き付けさせて貰います。(ヤックル)

「え?」と、思わず読み返した加入情報から約2年。とうとう、その日が来てしまった。

今回の報道に接して一番最初にフラッシュバックしたのが、昨季のアウェイ千葉戦。フクアりに詰めかけた一万人に近い千葉サポを無言にさせたあの試合。終了の笛とともに、ピッチに大の字で寝転んだアノ姿だった...。いろんな場面、たくさんのプレーが思い浮かんでくるハズなのに、なぜだかキャプテンというこの場面が真っ先に脳裏に蘇る。この2年。辛い思いばかりさせたのではないだろうか?という忸怩たる気持ちもある。彼が来てくれて、ようやく精神的支柱という、かつて今西さんが渴望していた、でも曖昧でしかなかったイメージが具現化された。

もちろん、この2年のクラブの結果や内容に物足りなさを感じる向きもあるだろう。逆に、彼がいなかったら、もっと早く結果が出ていただろう。良くない方向へ、という考えもある。ボクは後者の立場。とにかく、多大な影響を周りに与えてくれたと信じている。

今回の発表後にあったインタビューで、ウチの選手が「服

岡田 歯科医院

岐阜市加納新本町 1-23
tel:058-273-8998

部さんは、とにかく手を抜かない。」と感嘆していた旨の記事を目にした。その選手が誰かはわからないけど、彼が今まで「手を抜いていた」ということではないだろう。彼もプロとして、練習はもちろん、練習後のケアにも励んできていたはずだが、キャプテンの姿勢を見て「まだまだ、自分は服部さんに及ばない。」と感じ入ったのではないか。そういった有形無形の何かを得てくれているなら、ウチの今後がますます楽しみになってくる。残念ながら、それは一朝一夕には実を結ばないものなのだと思う。ただ、服部年宏という一粒の種が、いまFC岐阜という荒れ野に芽吹かせてくれた「何か」が、来季の選手を、このクラブをさらなる高みに導いてくれることを願って止まない。日曜日の札幌戦は文字通りの「最終決戦」。是が非でも勝利を手中にして、史上に残る偉大なフットボーラーの花道を飾りたい。スタジアムを訪れた岐阜サポの全力を結集して、キャプテンに勝利を捧げよう！...もし、決勝ゴールをキャプテンが決めたら...。ボクは間違いなく、壊れてしまうよ。(ぐん、)

倉田監督時代、木村監督時代に感じていた「精神的支柱」になってくれる選手がいない」というもどかしさを北アルプスの先まで吹き飛ばしてしまうような加入だった。いまでも、「よくぞ来てくれた！」と一緒に「なんで来てくれたんだろう...」という思いはある(笑)。ま、なんとなく噂では聞いていますが.....。2年間、本当にチームを支えてくれました。けど、引退の記者会見で本人が語っていたけど、やはり年齢的な問題なのか、自分で納得出来るプレーがむずかしくなっていたのでしょうね。本当ならこんな切羽詰まった状況でなく、「ありがとう」「お疲れさまでした」と伝えたいのだけど、チーム事情がそれを許さない(苦笑)ので、すみませんが最後まで闘ってください。そして、しっかり残留を決めてから御礼を伝えたいです。(吉田鑄造)

今年の、そして来年のFC岐阜へ。

うーん、今年もホーム最終戦を心穏やかに(苦笑)迎えることはできませんでした...残念。

さて、2013年のFC岐阜を振り返ると、やはり、行徳監督2年目だったものの8/18(日)に解任されて、辛島監督に交替したのが、一番大きな出来事だったのでしょうか。J昇格後は初めての解任劇で、ちょっと想定外でした。想定外と言えば、ここまで選手補強&放出をするんだったら、なぜ開幕から...という疑問が(苦笑)。まあ当時の予算的な問題もあるでしょうから、その辺りの反省は、フロントが今後活かしてもらいたいものです。

今年のチームをデータで見ると、過去3年間の勝率は
2011年 36試合 6勝5分25敗・勝点23(勝率0.17)
2012年 42試合 7勝14分25敗・勝点35(勝率0.17)
2013年 40試合 8勝10分22敗・勝点34(勝率0.20)
となる。今年は、少し勝てるようになった、とも言える。しかし、同じく過去3年間の、1試合あたりのチームの得点および失点は、

2011年 1.03得点 2.18失点 20/20位

2012年 0.63得点 1.30失点 21/22位

2013年 0.88得点 1.90失点 21/22位

(2013年は第40節現在)

うーん...昨年は「失点が減ったけど得点も減った」だったんだけど、今年は2011年に逆戻りしてしまったような...実際、勝利は1得点差、敗北は複数得点差...というパターンが非常に多い。守備と攻撃のバランスは、高額な選手を補強することが困難なウチみたいなチームにとっては特に難しいんだろうけど、なんとか修正して欲しいものです。それと、今年はFC岐阜セカンドの活躍が光った年でした。東海1部リーグで2位、全社大会で3位、そして(県選抜チームとして)国体優勝という、実に華々しい成績を納めてくれました。岐阜県勢という意味では、帝京大可児中が全中体連で優勝、帝京大可児高がインターハイベスト8と、

アマチュアサッカーに関しては明るい話題が多かったですね。あとはトップチームが...(苦笑&溜息)。来年期待したいのは、ボランチあるいはトップ下の選手の成長ですね。今年も、トップからこぼれたのもDF陣が跳ね返したのも、セカンドボールが全然拾えてなくて、連動性のあるプレーが足りなかったように思います。その辺りを改善できれば、もう少し勝てるんじゃないかなぁ...と。え、J3?FC岐阜は残留するに決まっているから、そんなの気にしませんってば!!(苦笑)

あとは経営問題。今年は黒字が確定してる(...はずだよな?)から、それほど心配はしていないけれど、それは「臨時収入」があったからで、しかも累積債務は解消されていない。これを2014年度には解消しないと、J2ライセンスが剥奪されてしまう。今年、福岡にも栃木にも熊本にも経営危機が訪れたように、地方のJクラブは本当に大変だと思う。チーム強化と収益アップと経営改善と地域貢献と...と、親会社を持たないクラブ運営が、少しでも安定するよう、来年もがんばってほしい。(ささたく)

編集人から一言。

まずはJFLの状況を確認しておきます。

11/10の試合で長野が1-0で秋田に勝ち、讃岐が0-1でソニー仙台に敗れました。この結果、長野パルセイロがJFL優勝。カマタマーレ讃岐の2位も確定しました。これによりJ2最下位の自動降格はなくなり、讃岐との入替戦になります。第1戦が讃岐ホーム、第2戦がJ2側ホームとなるようです。

明後日の19日にJリーグ理事会が行われ、そこで現在は改善要請つきとなっている讃岐のJ2ライセンスが論じられる予定で、ここでJ2ライセンスが認められれば予定通りに入替戦開催。不認可の場合は讃岐はJ3からのスタートとなるため、入替戦は行われず、J2は全チーム自動残留となります。

と、こんなことまで心配しないといけないのも、ひとえにFC岐阜が残留を決めてないからで、んもうっ、とっとと残留決めちゃいなさいよ!といった感じ(苦笑)。

思えば、1月の新入団選手発表会で「戦力が足りないとは思っていない」というようなことを前任の行徳監督は話していたけど、現在のスタメンを見ると「足りなかった」のは明らか。強化担当は今季のこの状況をキチンと総括してくださいな。

行徳監督から辛島監督へ。来季に関しては新聞に次の監督らしき人物の名が出たりだったり、J3の動向も含めて、正直言って「よくわからん」。この『岐大通』が出るのかも、わかりません。

今季も無事に全ホーム戦での発行を終えることが出来そうです。「出来そうです」というのは、入替戦が岐阜で行われるならもう1回出すことになるから.....なのですが、『岐大通』制作サイドはそんな事態になることはまったく想定していません(きぱっ)のでよろしくお願いします。とりあえず、1年間のご愛読ありがとうございました。

(編集人:吉田鑄造)

ALADDIN

何も無い店だけど...

心の花が咲く...

何も無い店だけど...

心癒される...

忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)